

第1分科会  
7  
秋田県医師会

秋田県の学校における震災後の子どもの心の状態についてのアンケートについて

秋田県医師会学校保健委員会（市立秋田総合病院 小児科）

小泉 ひろみ

秋田県学校保健委員会

根本 大輔

秋田県学校保健委員会

水俣 健一

秋田県学校保健委員会

大山 則昭

秋田県教育庁体育保健課

村上 まゆみ

平成23年3月11日の東日本大震災は被災地の方々に肉体的にも心理的にも大きな影響を与えたことは想像に難くない。奥尻や阪神淡路、新潟での大災害の経験から今回の大震災直後から被災地で様々な「心の支援」が活動し、子どもの心の支援は現在も続いている。秋田県は直接の被災地ではなかったが、震災後まもなくから避難してきた方々がいた。また、テレビなどで津波が町を飲み込む映像を繰り返し見るといった間接的なトラウマで、PTSD（心的外傷後ストレス障害）をおこすことも知られている。秋田県医師会では、学校から児童生徒に関する心の相談を受けるために県教育委員会から委託された精神科相談医制度を6名の精神科医にお願いしている。今回の震災後の医師会の窓口をこの6名にすることを広報するためもあり、学校に「子どもの心の状態について」のアンケートを依頼した。

【目的】

- ①震災後の秋田県の子ども心の状態を知る
- ②心の問題の症状に改めて各学校で留意していただく
- ③秋田県医師会の「震災後の子どもの心」の相談の窓口が「精神科相談医事業」の6名であることを各学校にお知らせする

【制限】

日本心理臨床学会「心のケアによる二次被害防止ガイドライン」

【対象】

秋田県内の学校すべて：小学校245校、中学校128校、高等学校54校、特別支援学校13校。回答は養護教諭。

【施行時期】

第1回：平成23年6月、第2回：平成24年3月

【質問内容】

①学校種 ②全児童生徒数 ③被災地より来ている児童生徒数 ④急性ストレス障害やPTSDと思われる症状を呈している児童生徒数 ⑤医師に相談または受診した数 ⑥それ以外の対応方法を質問した。第1回の調査では震災直後と3カ月後の様子、第2回の調査では震災1年後の様子で聞き、第2回の調査では震災1年後に症状のある児童生徒が以前から心理的問題を持つ場合や不登校であったかどうかの質問を追加した。「症状」の内容は、日本小児精神神経学会よりアンケートへの使用許可をいただいた内容「①表情が少なくぼーっとしていることが多い、②口数が減る・話をしなくなったり必要以上におびえている、③少しのことで興奮しやすい・または突然興奮したりパニック状態になる、④話題が急に変わったりつじつまがあわなかったり突然人が変わったようになり現実でないことを言い出す、⑤そわそわして落ち着きがなくなり少しの刺激でも過敏に強く反応する、⑥吐き気や腹痛・めまい・息苦しさ・頭痛・頻尿など身体症状を強く訴える」とした。以前からそのような症状を有する人の場合は、

それが増強した場合とした。

## 【結果】

第1回では小学校の98%、中学校の98%、高校の96%、特別支援校の78%から回答をいただいた。第2回では小学校の99%、中学校の98%、高校の98%、特別支援校の100%から回答をいただいた。被災地よりの児童生徒数は、第1回の調査の震災後3カ月の時点では小学生で176人、中学生で45人、高校生で13人、特別支援校で6人の合計240人であったが、第2回調査時の震災1年後では小学生で197人、中学生で39人、高校生で17人、特別支援校で4人の合計257人であった。被災地より児童生徒を受け入れている学校数では震災3カ月後は30%の学校であったが、震災1年後には27%と学校数は減少していたが、人数は増加していた。

小学生の場合、震災直後に症状のあったのは被災地よりの児童生徒で3%、震災前よりの秋田在住者で0.06%であった。震災後3カ月の時点では被災地よりの児童生徒で0.6%、以前よりの秋田在住者で0.004%であった。震災1年後では被災地よりの児童生徒で0%、以前よりの秋田在住者で0.006%であった。震災1年後症状のあった3人は以前よりの秋田在住者であったがそのうち2人では震災前から心の問題があるかまたは不登校の児童であった。

中学生の場合、震災直後に症状のあったのは被災地よりの児童生徒で5.1%、震災前よりの秋田在住者で0.01%であった。震災後3カ月の時点では被災地よりの児童生徒で2.5%、以前よりの秋田在住者で0.004%であった。震災1年後では被災地よりの児童生徒で5.1%、以前よりの秋田在住者で0.004%であった。震災1年後症状のあった合計3人に震災前よりの心の問題はなかったようだった。

高校生の場合、震災直後に症状のあったのは被災地よりの児童生徒で15.3%、震災前よりの秋田在住者で0.1%であった。震災後3カ月の時点では被災地よりの児童生徒で7.6%、以前よりの秋田在住者で0.004%であった。震災1年後では被災地よりの児童生徒で5.9%、以前よりの秋田在住者で0.008%であった。震災1年後症状のある生徒で以前からの秋田在住者2人のうち1人は心の問題があるかまたは不登校の生徒であった。1年後に症状のあった被

災地よりの1名は特にこれまで問題はなかったようであった。

特別支援校では、震災直後に症状のあったのは被災地よりの児童生徒ではおらず、震災前よりの秋田在住者で0.57%であった。震災後3カ月の時点では被災地よりの児童生徒でも以前よりの秋田在住者でもいなかった。震災1年後でもどちらでもいなかった。

医師またはカウンセラーに相談または受診した児童生徒数は第1回調査時では17人（症状のある児童生徒の23.6%）、第2回調査時は「医師に相談または受診」と聞き、中学校で1校、1名であった。第2回調査で、医師に相談または受診していない場合の対応では、学校の教職員で対応、教職員とスクールカウンセラーが対応したという結果であった。

## 【考察】

震災直後、被災地より避難してきた児童生徒で小学生の3%、中学生の約5%、高校生の15%強が症状をおこした。3カ月後はいずれの学校でも症状をおこす割合が減少したが、1年後でも中学生、高校生では約5%強の生徒が症状を呈していた。特に中学生では3カ月後その割合は一旦減少したが1年後増加した。震災以前から秋田県に在住している児童生徒も人数・割合は少ないものの、症状をおこした児童生徒は存在し、いったん減少した割合が1年後小学生と高校生で増加した。この中に、震災以前から心の問題や不登校の児童生徒がいた。

特別支援校では、被災地より避難してきた児童生徒ではいずれの時期も症状をおこした者はいなかった。以前よりの秋田在住者では震災直後0.57%と他の学校群に比して高い割合で症状を呈した児童生徒が存在したが、3カ月後、1年後はいないということであった。

これまでの大災害後の調査によると、直接大災害を経験した場合は直後よりも時間がたってからの方がPTSDやうつ、自殺念慮が増加するが、メディアを通じての間接的トラウマによるPTSD様の症状は、災害直後には多いが時間の経過によって無治療でもその割合は減少していくといわれている。しかし、個人の本来持っている「傷つきやすさ」や災害前からの心理的な要因のために、間接的トラウマ

でも長期に症状をおこすことがあることも知られてきている。今回の調査で、被災地よりの児童生徒の方が症状をおこしている割合が多かったが、その中には以前から心の問題を持っている児童生徒は含まれていなかった。

震災以前から秋田県に住んでいる児童生徒で1年後も症状をおこしている人数は少ないものの、その中に震災以前より心の問題や不登校の問題を持っている人が含まれていた。

特別支援校に通学している児童生徒は、以前から秋田県在住の生徒で震災の直後に症状をおこした割合は高かったが、その後被災地よりの方も、以前の県内在住者でも症状は比較的早期に改善していたのは幸いであった。

問題なのは、被災地より避難してきている児童生徒で1年後でも症状の続いている場合かと思われる。PTSDとして専門的に診察していく時期になっていると考える。また、以前の秋田在住者はもともとその児童生徒が持っている問題を考えていく必要があると思われた。

## 【まとめ】

秋田県の学校で児童生徒の震災後の心の状態を調査した。被災地よりの児童生徒では震災以前から秋田に住んでいる者より高い率でPTSD様の症状をおこし、震災の3カ月後ではどの学校群でもその割合は減少したが1年後では中学生で増加した。PTSDは被災後年を追って増加するともいわれおり留意していくべきと思われる。また以前よりの秋田在住者も数は少ないが症状を呈した児童生徒がいて、その方たちには震災以前よりの心の問題に対応していく必要があると思われた。

図1. 震災後まもなくの時点で、症状のあった児童生徒

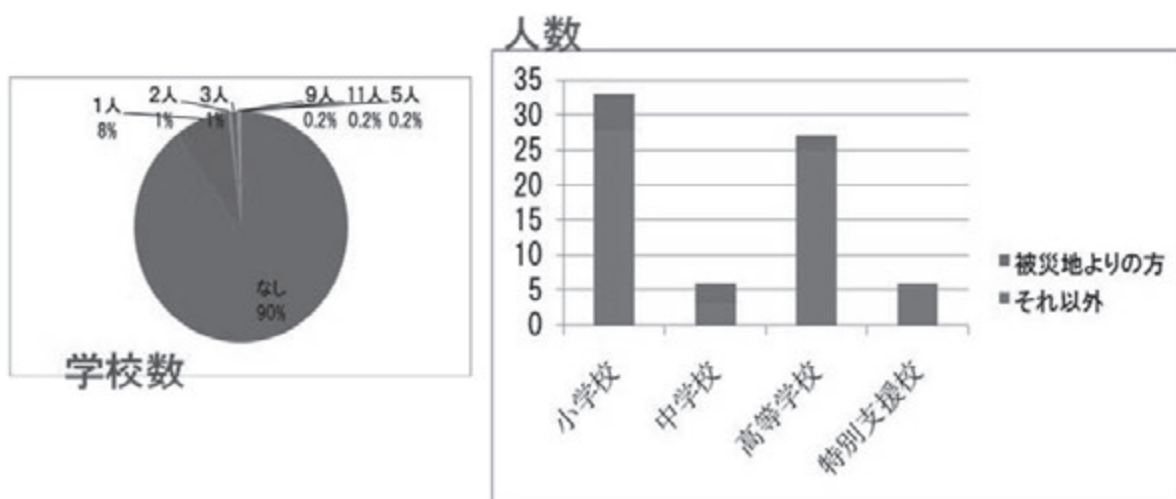


図2. 震災3ヵ月後に症状のある児童生徒

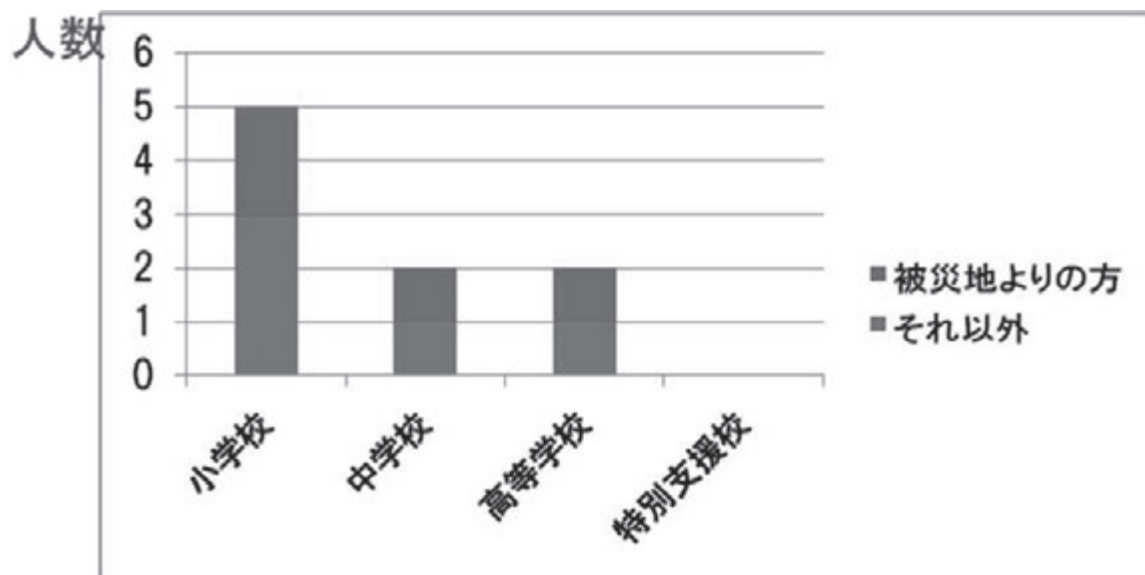


図3. 震災1年後に症状ある児童生徒

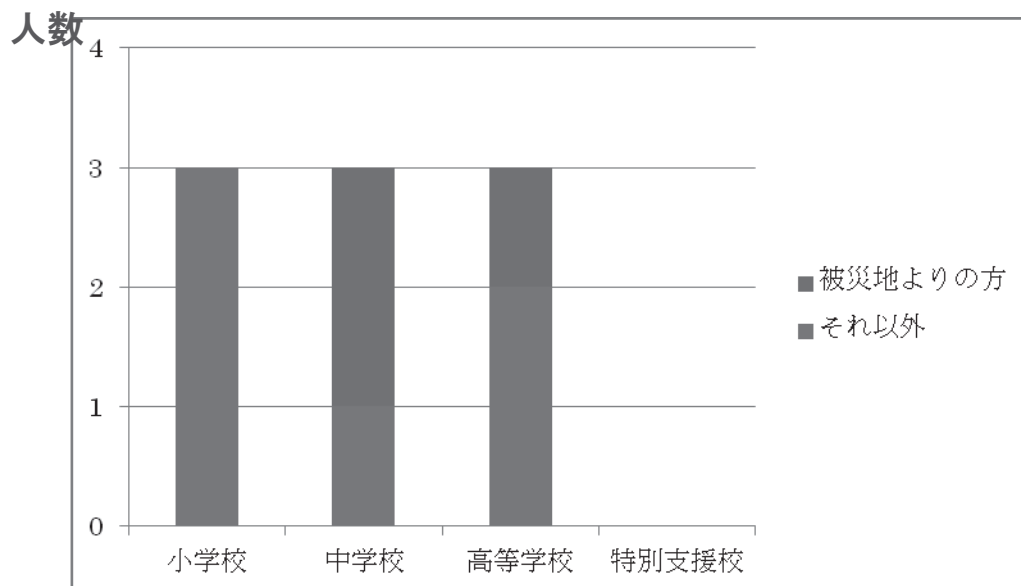


表 1. 症状のあった児童生徒の割合

	被災地よりの児童生徒			以前からの秋田在住者		
	直後	3ヵ月後	1年後	直後	3ヵ月後	1年後
小学校	3%	0.6%	0%	0.06%	0.004%	0.006%
中学校	5.1%	2.5%	5.1%	0.01%	0.004%	0.004%
高等学校	15.3%	7.6%	0.008%	0.1%	0.004%	0.008%
特別支援学校	0%	0%	0%	0.57%	0%	0%

図 4. 被災地よりの児童生徒で症状のあった割合

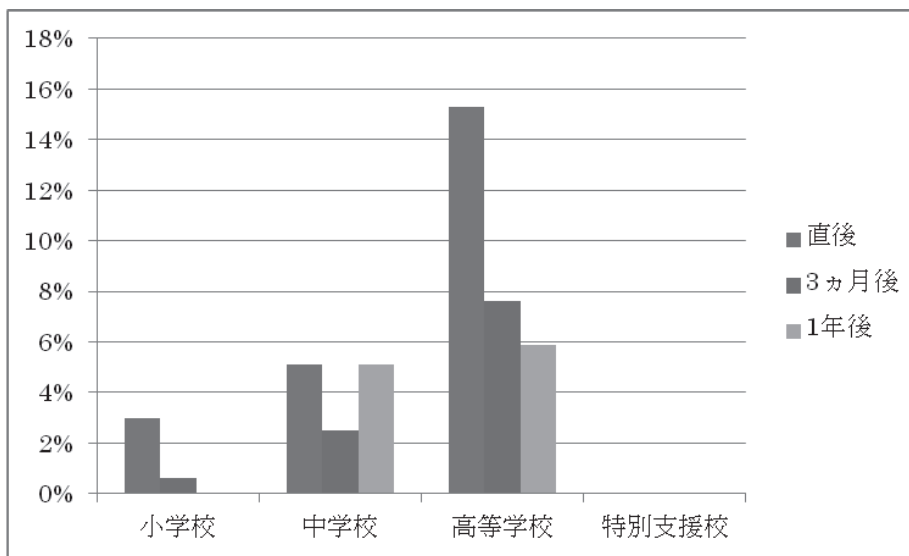


図 5. 以前から秋田在住の児童生徒で症状のあった割合

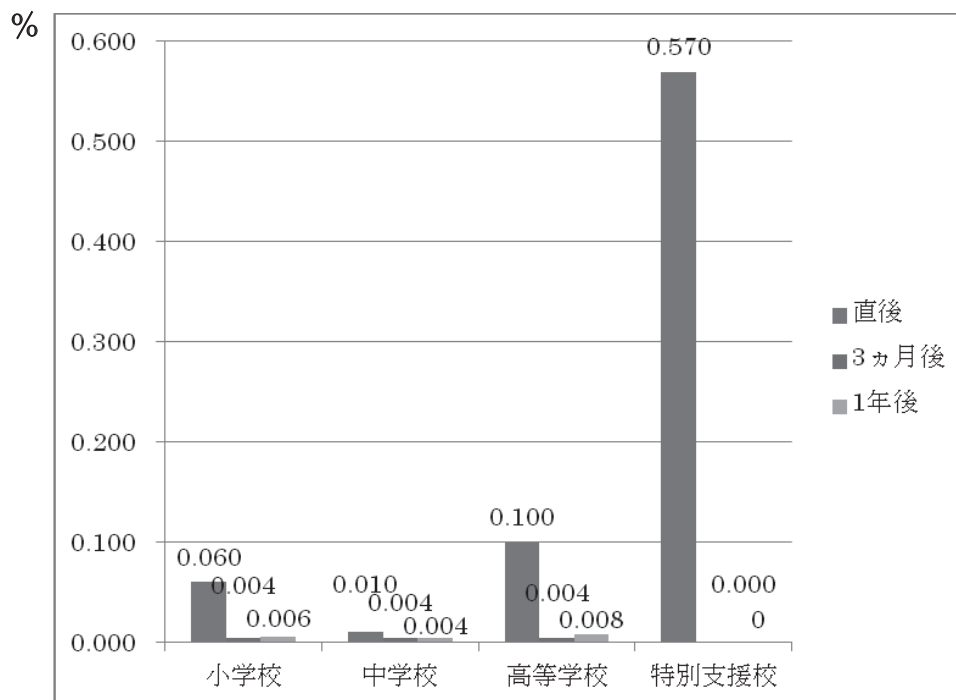


表 2. 1 年後、症状があった児童生徒のうち震災前より心の問題をかかえていた方

1 年後症状のある方	被災地より	震災前より秋田に在住
小学校 (在校生あたり)	0 人	3 人
	0%	0.006%
震災以前より心理的問題あり	0	2 人
中学校 (在校生あたり)	2 人	1 人
	5.1%	0.004%
震災以前より心理的問題あり	0	0
高等学校 (在校生あたり)	1 人	2 人
	5.9%	0.008%
震災以前より心理的問題あり	0	1 人
特別支援校 (在校生あたり)	0 人	0 人
	0%	0%
震災以前より心理的問題あり	0	0